



国立科学博物館コラボミュージアム in 奄美「琉球の植物」
場所：奄美市立奄美博物館
期間：平成22年2月21日（日）まで
琉球列島の亜熱帯を中心に、そこに生きる植物や植物とヒトとのかかわりを紹介したパネル展示や、南島雑話に書かれている染色の再現、芭蕉布で作られた着物の展示などを行っています。



アマミノクロウサギ事故防止キャンペーン ①
とき：平成21年11月17日～11月23日
事故死体の確認数が例年ないほど多くなったため、キャンペーンを行いました。チラシを作り、ホテルや各市町村役場などに配布しました。

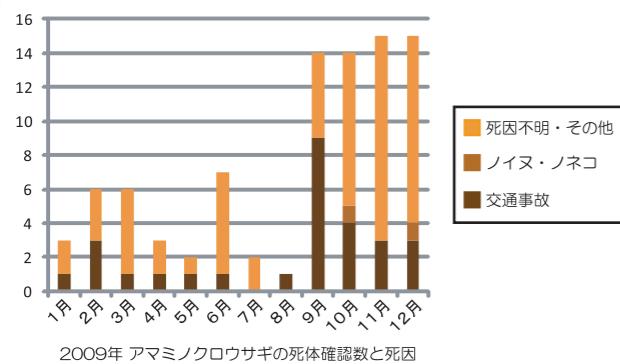
リュウキュウアユ産卵床造成イベント ②
とき：平成21年11月28日、11月29日
場所：宇検村河内川と住用町役勝川
リュウキュウアユのお話と産卵床作りを行いました。産卵床作りは冷たい川の中での作業でしたが、みんなはりきって作業を行っていました。

やせいのいきもの絵画展賞状授与式 ③
とき：平成21年12月5日
応募作品194点の中から12点の入賞作品を選び、入賞者に賞状を授与しました。賞状は今回のテーマに沿って、馴染みのあるゲットウ（サネン）を使って職員が手作りしました。

瀬戸内町冬のお話し会 ④
とき：平成21年12月12日
場所：瀬戸内町郷土館図書館
アマミノクロウサギの生活について、あまくろと一緒に説明しました。



アマミノクロウサギ死体確認数



アマミノクロウサギのために、あなたができること

安全運転

林道では、20km/h以下で走行しましょう。

犬・ねこの適正飼育

最後まで責任を持って飼いましょう。

※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを見たら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。

生きものおもしろ写真館



ツマムラサキマダラ（さなぎ）
銀色に輝くふしげなさなぎ。周りの景色を映して身を守っているとか。
ツマムラサキマダラは90年代まで迷蝶だったようですが、分布域が北上しています。

編集後記



新年明けましておめでとうございます。去年はいつの間にか大晦日がきて、元旦があつという間に過ぎていきました。年々、月日が流れていくのが早くなります。今年の大晦日もあつという間に来るんでしょうね。今年もよろしくお願ひいたします。
(吉田)

2010.2.3発行
奄美野生生物保護センター
〒894-3104 鹿児島県大島郡大和村思勝551
TEL : 0997-55-8620 FAX : 0997-55-8621

奄美野生生物保護センター
季刊ニュースレター

奄美の風だより

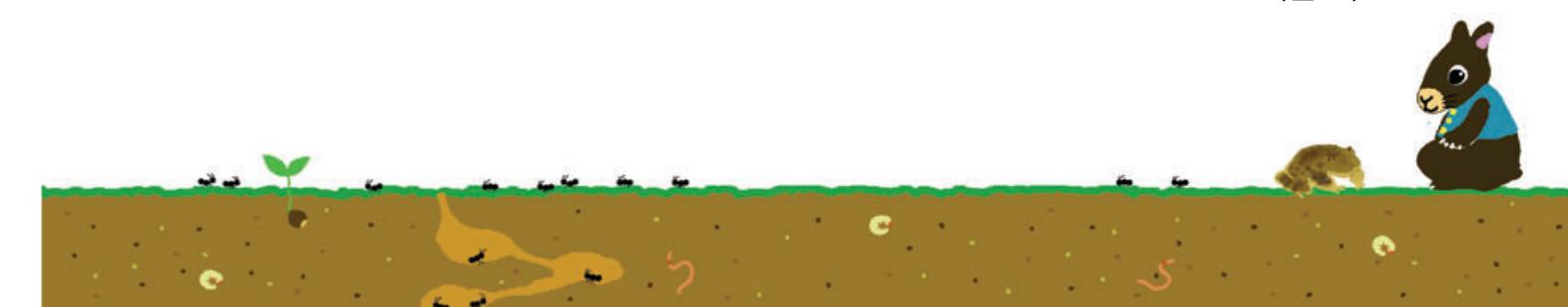


奄美の冬は気温はそれほど下がらないけれど、風が強いためとても寒いです。風の強い日に海岸線を車で走っているとハンドルをとられることもしばしばです。くすんだエメラルドグリーンの海は冬の日本海とまではいきませんが、白波が立ち荒々しいです。

雪の降ることがほとんどない奄美では、雪が積もった白い景色・音がなくなる世界を体験することは出来ません。しかし、奄美では白い景色の代わりに、裸になることがなく青々と茂る山にはハゼノキの赤い葉が彩りを添えられています。原っぱでは、シロハラやキセキレイが飛び回ってにぎわっています。

雪化粧した景色もすてきですが、1年を通して色があり、生きものの声が響きわたる奄美もとてもすてきですね。

(吉田)



編集・発行
奄美自然体験活動推進協議会
VOL.10 No.3
通巻36号

奄美の冬の動植物



リュウキュウアカガエル

冬の寒い時期に、道のくぼみ、木の洞など、さまざまな場所にできた水たまりや、渓流のよどみなどに卵を産む。



リュウキュウコスミレ

畑地や庭、低地～山地の日当たりのよい路傍や草地などに生える多年生草本。花期は1月～4月。



写真を反転し拡大すると



今季の一枚 「アサギマダラ」

秋に南下してくるアサギマダラ。長距離を移動することで有名で、チョウの羽にマーキングをする調査が全国で行われています。マーキングすることによって、移動距離や寿命などがわかります。最近では学校でマーキングを行っているところもありますね。

さて、この写真的のチョウもマーキングされています。よく見ると「11/4」「サセボ」「バイオ3763」と書かれています。11月4日に長崎県佐世保市で捕獲・記録されたもののようにです。

2009.11.27撮影



ツグミ

冬鳥として農耕地などへ渡来する。雌雄ほぼ同色だが、雌は雄に比べ褐色味が強く、黒っぽくない。



サクラツツジ

低地～山地の林縁に生える常緑低木。花は枝先に2～3個束生する。花冠は淡紅白色で上側内面に濃色の斑点があり、径約4cm。

参考文献 琉球弧 野山の花（南方新社 写真と文：片野田逸郎 監修：大野照良）
奄美の野鳥図鑑（文一総合出版 編集：NPO法人奄美野鳥の会）

いきもののふしき ~冬鳥の話~

越冬のために冬の間だけ渡ってくる鳥のことを「冬鳥」といいます。この時期、奄美ではたくさんの冬鳥が見られます。ここでは、意外と身近にいる冬鳥の生活を絵にしてみました。屋外に出た際には、みなさんもこれらの冬鳥のことをちょっと気にかけて観察してみてください。



ヒヨドリ

「ビーヨ、ビーヨ」と騒がしく鳴く鳥です。奄美にはアマミヒヨドリという亜種が一年を通して生息していますが、それとは別に、冬の間は本州などから別の亜種ヒヨドリも渡ってきます。全体的に褐色味の強いアマミヒヨドリに対し、ヒヨドリは白っぽく見えるのが特徴です。

サシバ

奄美では10月から4月の間に見られる冬鳥です。「ピックイー」と鳴きながら上空を飛ぶ姿が目立ちますが、農耕地のような開けたところで電柱や杭の上にとまり、小動物を探している姿もよく見かけます。繁殖地となる里山環境が減少していることもあります。個体数は減少しています。

カラスのモビング

ハシブトガラスがサシバを追いかけているのを見かけることがあります。自分より大きな鳥を攻撃するこのような行動のことを「モビング」と呼びます。大きな鳥に食べられないようするための行動ですが、サシバがカラスを襲って食べることはあまりないので、このモビングにどんな意味があるのかはよくわかりません。

ショウビタキ

配色の鮮やかな美しい冬鳥です。オスは頭が銀灰色、顔と背中が黒、お腹がオレンジ色をしています。メスは頭から背中にかけて褐色で、お腹はオスよりもうすいオレンジ色です。雌雄ともに翼に白い斑があるのが特徴です。ヒツ、ヒツ、カツ、カツという声で鳴き、人をあまり恐れないため他の鳥に比べて近くで見ることができます。

ウグイス

藪の中で「チッ、チッ」と鳴くのはウグイスです。ウグイスの鳴き声といえば「ホーホケキョ」ですが、それは繁殖期の鳴き方です。奄美群島でウグイスが繁殖しているのは喜界島、沖永良部島、与論島で、それ以外の島では冬鳥です。同じ群島内でウグイスが繁殖する島としない島があるのはとても不思議なことです。

シロハラ

奄美的代表的な冬鳥です。11月から4月ごろまで、道路や林縁などで尾羽の両端が白いこの鳥の姿をよく見かけます。シロハラは外来生物マングースの冬の主要な食べ物になっています。ただしシロハラの数は年によって違いがあり、たくさん渡ってくる年もあればほとんど見られない年もあるようです。

キセキレイ

奄美で最も長い期間見られる冬鳥で、早い個体は8月には渡ってきて、遅い個体は5月ごろまで滞在しています。道路や開けた草地などで、尾羽を上下に振りながら歩く姿をよく見かけます。人が近づくと、「チチチチチッ」と鳴きながら逃げていきます。体の下側が黄色く、尾羽の長いスマートな感じのする鳥です。